

平成22年度 授業改善推進プラン

教育目標

**関係法令**  
日本国憲法  
教育基本法  
学校教育法  
学習指導要領 等

気品と風格にあふれた青南小学校のよい伝統を受けつぎ、心身ともに健康で国際社会において信頼される人間の育成を目指して、次の目標を定める。

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 体をきたえる子

- ・子どもの実態
- ・学校、地域の実態
- ・保護者や地域の願い
- ・期待される児童象
- ・教師の願い
- ・評議員からの意見 等

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

**よく考える子（語彙の拡充 論理性 批判的思考）**

・興味関心を引き出す ・習得型の学力の確実な定着 ・活用型の学力を発達に応じて形成 ・深化探究型の学力を個性に応じて開発

**思いやりのある子（関係性の構築 想像力 共感的思考）**

・あいさつの習慣化 ・進んで行動する子どもの育成 ・相手の思いやその場の状況を心情豊かに想像する感性

**体をきたえる子（生活のリズム 基礎体力 スポーツ技能）**

・基本的な生活習慣 ・自分の目当てをもってさまざまな競技に挑戦する力と技 ・正しく美しい姿勢を保てる体力

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います

**道徳教育の指導の重点**

○子ども一人ひとりの考え方や行動、人とのかわりを大切に、自他の生命・人権を尊重し、思いやりのある豊かな人間性を養う。

○全体計画に基づき、道徳の時間の充実を図るとともに、全教育活動を通して道徳的判断力を高め、各学年の発達段階に応じた道徳的実践力の育成に努める。

○学校教育において豊かな体験の場を取り入れることを重視し、家庭・地域社会との連携を深め、子どもの内面に根ざした道徳的実践を促す。

**総合的な学習の時間の重点**

○自己の生き方につながる学びを児童自らが経験できるようにするために、地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを基本にすえて、それを対象にした課題を設定し、意欲的に探究し、学んだことを伝え、自分の生活に生かしていく場とする。

○子どもに身に付けたい資質・能力・態度を明確にし、それを実現するための学習活動を実態に即して設定するとともに、各教科等との関連を積極的に図る。

教科名	取組内容
国語	・「自分の考えを話す力」を伸ばすために、自分の考えを明確にさせた上で、相手を意識して話す活動を取り入れる。 ・「書く力」をさらに育成するために、文章の構成を整えて叙述する指導の充実を図る。 ・言葉の意味を正しくとらえることや接続語の理解、指示語の適切な使用をうながす指導
算数	・図形を操作したり、実際にグラフや表を作成したりする活動を導入し、それらの定着を図る。 ・数学的な思考をより深めるために、自分の考えを明確にもたせ、それを他の児童にわかりやすく説明したり、ノートに記述するなどの活動を行った指導。
社会	・地域教材を積極的に提供し、そこに生活する人々や事象と出会うことを通じて問題解決的な学習を展開する指導。 ・資料活用の技能向上に焦点化した指導の充実
理科	・日常的な飼育・栽培活動の充実を図り、生命に対する関心をもたせる指導を重視し、観察対象となる植物や生き物の微細な変化・成長に気づき、観察をするような感性を育てる。 ・生活感を伴う自然事象を明確にとらえ、それらと結びつけながら知識を定着する指導。 ・生活科のより一層の充実と理科への接続・発展を図る。

**生活指導の重点**

○基本的な生活習慣及び規範意識を身に付けた子どもの育成と、健康教育の推進に努める。PTA活動と連携した食育の充実を一層図る。

○安全教育の充実を図り、問題の早期発見、解決に向けて報告・連絡・相談を密に行い、事故防止を徹底するとともに、危機対応の確立を図る。

○教育相談活動を充実し、一人ひとりの子どもの理解に努めるとともに、温かい人間関係の中で自己実現を図る。

○学校と家庭・地域社会との連携を密にし、全教育活動を通して、心の通った健全育成に努める。

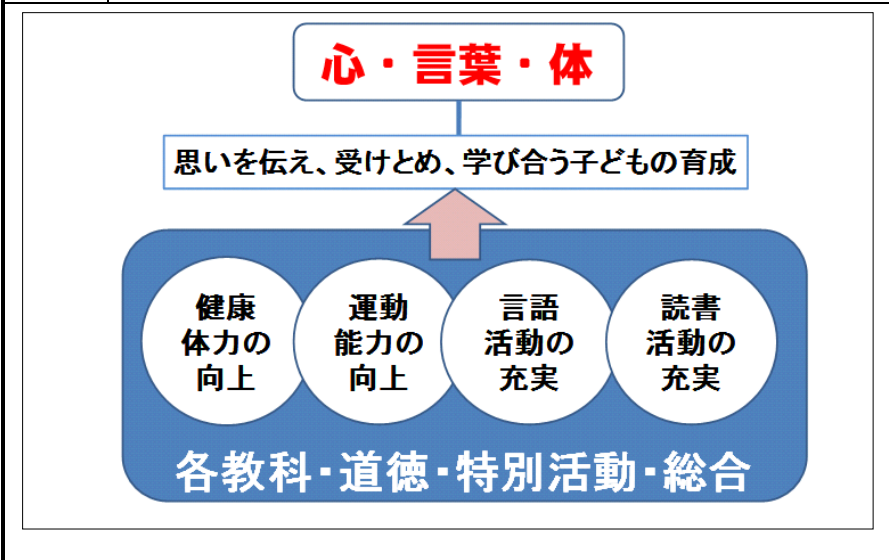
**進路指導の重点**

○自分のよさや可能性などに気づき、自分らしい生き方を実現する態度を育てる。

○進路指導の全体計画に基づき、学年発達に応じたキャリア教育を行う。

○学校教育全体において「生きる力」を育成する場面を設定し、困難や課題を創造的に乗り越えていく態度を身に付けさせる。

○地域の様々な職業の方にお話をしていただき、児童が生き方を具体的に学べる機会を設定し、将来の夢をもつことをうながす。



教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○「言葉の力」青南モデルの実践及びさらなる充実化を図る。 ○全校体制による読書指導の充実。 ○体験的・問題解決的な学習を重視し、思考力・判断力・表現力を育成する。 ○スキルタイムや少人数指導による補充的・発展的な指導の充実 ☆第2グラウンドを活用して教育活動の充実	○個に応じた指導方法の充実 ○教師の専門性を活かした指導体制 ○地域学習、体験的学習の充実（文化・芸術体験） ○水曜時程の工夫及び土曜日授業実施による時数確保 ○異学年交流を重視した特別活動の充実 ○モジュールの充実 ☆ねらいを明確にした朝会・集会活動の設定	○児童が自身の目標を設定して体力向上を目指す取組 ○指導過程での評価を重視（「形成的評価」）。指導と評価の一体化を進める。 ○児童の自己評価力を高める取組 ○TT及び少人数指導の評価を随時実施し、個に応じた指導の手立てを講じる。 ○学校評価の充実…自己評価・学校関係者評価・第三者評価を「改善サイクル」に沿って実施	○東京都スポーツ教育推進校・港区研究奨励校の指定を受け、健康体力・運動体力の増進を意図した研究及び授業研究。 ○研究関連の実技研修の充実 ○研究全体会・分科会の計画的な活動 ○国際科年間計画、授業モデルの作成 ○OJTの積極的推進 ○ICTを活用した授業のあり方に関する研修	○年三回の学校公開。 ○学校評議員会の効率的運営及び積極的活用 ○「文化芸術サロン構想」に基づく地域人材（含む卒業生）の活用 ○PTA活動との連携による体力づくりの推進。 ○児童に地域の諸行事への参加を奨励 ○学校ホームページ及び学校だよりによる情報公開の充実 ☆幼保との連携の一層の推進

# 港区立青南小学校 授業改善に向けた視点

平成22年度

## 本校の授業改善に向けた視点

指導方法・指導体制の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉の力」青南モデルの実践及びさらなる充実化を図る。</li> <li>全校体制による読書指導の充実。</li> <li>体験的・問題解決的な学習を重視し、思考力・判断力・表現力を育成する。</li> <li>スキルタイムや少人数指導による補充的・発展的な指導の充実</li> <li>第2グラウンドを活用して教育活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導方法の充実</li> <li>教師の専門性を活かした指導体制</li> <li>地域学習、体験的学習の充実（文化・芸術体験）</li> <li>水曜時程の工夫及び土曜日授業実施による時数確保</li> <li>異学年交流を重視した特別活動の充実</li> <li>モジュールの充実</li> <li>ねらいを明確にした朝会・集会活動の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自身の目標を設定して体力向上を目指す取組</li> <li>指導過程での評価を重視（「形成的評価」）。指導と評価の一体化を進める。</li> <li>児童の自己評価力を高める取組</li> <li>TT及び少人数指導の評価を随時実施し、個に応じた指導の手立てを講じる。</li> <li>学校評価の充実…自己評価・学校関係者評価・第三者評価を「改善サイクル」に沿って実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都スポーツ教育推進校・港区研究奨励校の指定を受け、健康体力・運動体力の増進を意図した研究及び授業研究。</li> <li>研究関連の実技研修の充実</li> <li>研究全体会・分科会の計画的な活動</li> <li>国際科年間計画、授業モデルの作成</li> <li>OJTの積極的推進</li> <li>ICTを活用した授業のあり方に関する研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年三回の学校公開。</li> <li>学校評議員会の効率的運営及び積極的活用</li> <li>「文化芸術サロン構想」に基づく地域人材（含む卒業生）の活用</li> <li>PTA活動との連携による体力づくりの推進。</li> <li>児童に地域の諸行事への参加を奨励</li> <li>学校ホームページ及び学校だよりによる情報公開の充実</li> <li>幼保との連携の一層の推進</li> </ul>
具 体 的 な 取 組				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等における「言語活動」を重視した指導をさらに展開する。</li> <li>読書指導計画の作成及び実施</li> <li>図書室、第2図書室、学習資料室の充実・活性化を図る。</li> <li>生活科・理科・総合的な学習を中心として、「ひと・もの・こと」との出会いを積極的に導入し、児童が意欲的・主体的に問題解決をする場を設定する。</li> <li>ICT機器の活用</li> <li>少人数指導担当者との連携、区費講師の活用</li> <li>算数少人数指導の指導方法の工夫等の情報交換を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数、コース別、習熟度別指導（算数）</li> <li>高学年社・理・家庭・国際科で教科担任制</li> <li>週案簿・時数表のICT管理体制の整備。</li> <li>計画的な縦割り班活動の設置</li> <li>地域人材・文化等情報の管理及び授業における有効活用</li> <li>水曜時程、土曜授業の実施</li> <li>計画に基づくたてわり班活動</li> <li>朝の時間の活用…朝読書、国語・算数スキルタイム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育科における研究授業の実施・評価・改善。</li> <li>分科会を中心とするOJTの推進。</li> <li>毎週金曜日の学年会・専科会の確保。</li> <li>2週に1度国際科の意見交換会の実施。</li> <li>ICT機器を活用した授業に関する意見交換によるOJTの推進</li> <li>月1回の自主研修会の内容の充実と定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストや授業、日常生活の状況を評価し、それを受けた課題づくりと個人目標の評価項目の作成</li> <li>各教科における「言葉の力」の観点と「国語科における言語技能」を踏まえて系統的に評価する。</li> <li>TT及び少人数指導において、内容と個々の習熟度を踏まえて実施される授業形態や指導方法について評価する。</li> <li>保護者や児童を対象にした「外部アンケート」を活用した、教職員による自己評価を行事後・学期末及び学年末に行い、検討・改善する。</li> <li>学校評議員会へ積極的に情報提供し、共通理解を図るとともに改善に資する意見の提供を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な項目を検討して保護者や児童を対象にする「外部アンケート」を実施。</li> <li>学校評議員会の事前準備の充実により評議員会の活性化を図る。</li> <li>地域諸施設・人材との連携</li> <li>ランチルーム運営等「食育」のPTAとの連携強化。</li> <li>PTA活動の内外への紹介を通して、学校教育とのさらなる連携を図る。</li> </ul>
成 果 と 課 題				